

## 大川こども&内科クリニック INFORMATION

### インフルエンザワクチン接種人数延べ1,200名となる。

OCFCでインフルエンザワクチンを接種された方は延べ1,200人となりました。詳しい統計は次号に譲りますが、接種後24時間以内の発熱は6人であり、うちインフルエンザに起因すると思われる患者さんは4名でした。またカルテにインフルエンザワクチン接種の方はマーカーを付けておりますので、ワクチン接種とインフルエンザ発症の関係がすぐわかるとおもいます。ワクチン接種で副作用のあった方、接種にもかかわらず発症した方はご連絡下さい。より安全で確実なインフルエンザ対策の確立に役立てたいと考えております。

### 感染症 だより

今年は不思議なことに何時になっても夏風邪の代表格エンテロウイルスによる手足口病・ヘルパンギーナが消えません。さすがに患者さんの数は減りましたが12月になっても発症しております。また溶連菌感染症(猩紅熱)も少数ですが引き続き発症しております。流行性耳下腺炎、水道も幼稚園・保育園を中心に小流行があります。

11月から12月にかけて新たに流行したものに、マイコプラズマ肺炎があります。最初は感冒様症状で始まりますが、発熱が続くようになり、エリスロマイシンやクラリスあるいはミノマイシンの投与により改善します。発熱やレントゲン写真の所見があるにもかかわらず、比較的全身状態がよく治療が遅れることがあります。昔から夏のオリンピックの開催年に流行するといわれていました。OCFCでも5人の方にマイコプラズマ肺炎を診断しました。成人の方は3日間点滴を行ない、小児の方はミノマイシンの経口投与にて回復しました。

12月になって突然の大流行が感冒性嘔吐下痢症です。12月4日某園の患児3人が受診してから流行が始まり、OCFCを受診された方は12月の1ヶ月間で幼児から成人まで170人を超えました。患者さんに接触すると1日後ぐらいから症状は出現し、最初1~2日の嘔吐とその後3~5日の下痢の期間があり徐々に回復します。2日ぐらいの発熱のある方、下痢の伴わない方、1週後に再発する方などいろいろあります。年を越しても流行しているようです。発熱は抗生剤の使用如何にかかわらず、2日前後で解熱しますので、OCFCでは原則として抗生剤は使用しません。成人の方は上腹部痛を伴う急性胃炎型あるいは下腹部痛が強い急性大腸炎型を示す人もいます。多くのご家庭で子供から両親にうつっていくケースが多いようです。急性期の嘔吐の時期に鎮吐剤の使用とともに経口摂取を我慢することが早期の回復に役立ちます。嘔吐・下痢の強い場合は点滴が必要となります。OCFCでは吐気止めの座薬の使用時間と経口飲水開始時間と開始量を記入したパンフレットをお配りして療養の目安としました。

そろそろインフルエンザの流行の時期になります。ワクチンの摂取はお済ですか。今年はインフルエンザの新しい特効薬も市販されます。急な発熱、咽頭痛、咳、鼻汁、倦怠感、頭痛、関節痛等が出現しましたらインフルエンザの検査を受けてください。インフルエンザAまたはBと診断されますと特効薬が使用できます。

### 一口メモ

#### マイコプラズマ肺炎:

細菌より小型のマイコプラズマという病原体による肺炎。発熱、感冒様症状は2週間ぐらい続くが、全身状態は比較的良い。レントゲンで肺炎像を示す。時に発疹が出現する。マクロライド系薬剤、あるいはミノマイシンが著効をします。合併症に髄膜炎、腰痛、急性肝炎がある。